令和八年度春季入学春季募集
熊本県立大学大学院　文学研究科　日本語日本文学専攻　博士後期課程
試験問題　専門科目　解答例

〈解答の評価ポイント〉

①（一）対照のあり方としては、異言語間、日本語とその同系統内であれば、日流言語間、共通語と方言、現代語と古典語、等が想定される。

（二）右のような対照研究の中から、**イ** 当該分野の研究史の概要、**ロ** 近年の研究動向を踏まえた論点の摘出（音韻・文法・語彙・言語教育法、複合領域、いずれでも可）、**ハ** ロと自身の研究との接点、**ニ** 自身の研究における問題解決に向けた援用の可能性、の四点を、適切な術語使用のもとに、論理的に記述しているかを評価する。

② 自身の研究対象に対して比較研究という方法を導入することで、研究対象をより広い文脈に位置づけ客観化することが可能となり、自身の見解を相対化することが可能となる。その一方、比較研究自体が目的化すると、既存の枠組みに研究対象を落とし込むような安易な相対化に陥り、研究対象自体が持つ独自性を見失いかねない。そうした功罪を、自身の研究体験を踏まえて具体的に回答できること。